

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 運動器リハビリテーション料 (I) 呼吸器リハビリテーション料 (I) がん患者リハビリテーション料 ADL維持向上等体制加算			
附属施設			
居宅介護事業所 訪問リハビリテーションステーション 訪問看護ステーション			
リハビリ医（指導医）数： リハビリテーション科病床数（回復期）：	13 (8) 名 15 (0) 床	専攻医数： 担当コンサルト新患数： 担当外来数：	6名 20例/週 5例/週
入院患者コンサルト数： 外来数：	100-120例/ 週 60-100例/日	特殊外来	
特殊外来		痙縮治療 呼吸リハ 摂食嚥下障害 小児リハ	1例/週 1例/週 5例/週 1例/週
痙縮治療 呼吸リハ 摂食嚥下障害 小児リハ	5例/週 1例/週 10例/週 5例/週		
スタッフ数			
理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	73名 45名 21名		
診療領域		診療領域	
(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など (2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 (3) 骨関節疾患・骨折 (4) 小児疾患 (5) 神経筋疾患 (6) 切断 (7) 内部障害 (8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	1542例 315例 1130例 164例 532例 23例 942例 1258例	(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など (2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 (3) 骨関節疾患・骨折 (4) 小児疾患 (5) 神経筋疾患 (6) 切断 (7) 内部障害 (8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	30例 20例 30例 5例 5例 2例 10例 10例
検査		検査	
電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価	80例 325例 267例 646例 19例	電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価	5例 10例 10例 30例 5例
理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 プロック療法	5,207例 2,732例 720例 4例 152例 96例 320例 211例	理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 プロック療法	30例 30例 1例 10例 10例 15例 10例

藤田医科大学 ばんたね病院

〒454-8509

愛知県名古屋市中川区尾頭橋三丁目6番10号

代表電話：052-321-8171

指導責任者：青柳陽一郎

病院ホームページ

<http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

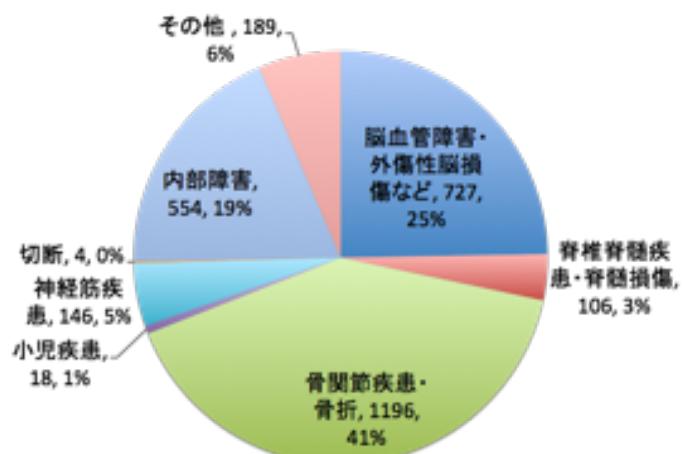


施設概要

当院は病床数408床を有する藤田医科大学第2教育病院です。JR名古屋駅から約10分、JR金山駅から約7分と名古屋都心部に位置する都市型病院であるとともに、地域に根をおろした地域密着型の総合病院です。昭和5年に当院の前身である坂種病院が開院し、地域では何かあれば「ばんたねさん」と親しまれてきました。昭和46年に藤田学園が大学医学部を創設するにあたり、大正時代から救済事業を行ってきた坂家が設立した財団法人坂文種報徳会から敷地・建物を無償借用して、新たに「藤田学園名古屋医科大学ばんたね病院」として運営することになりました。これを機に大学病院・教育病院として充実が図られ、1. 良質な医療、2. 人材育成、3. 地域医療への貢献を基本方針に掲げて日々診療を行い、教育そして研究の拠点として役割を担っています。また、地域にある診療所やクリニック・病院と緊密な連携を取りながら、地域医療システムの中で救急・急性期病院としての役割を果たすことを使命としています。2016年には新棟が開棟し、大学病院としてのより充実した治療環境が整います。

診療科は22科を有し、基本領域とサブスペシャリティの幅広い専門医研修体制を整えています。

リハビリテーション科医師は常勤2名、非常勤3名で、脳血管障害、神経変性疾患、整形外科疾患、循環器・呼吸器疾患、小児疾患（発達障害を含む）、などの疾患を対象として、定期的に機能障害、ADL障害を評価しながら、問題点や改善できる点を見いだし、訓練内容に反映させています。他科医師、療法士、看護師、MSW等と密に連携してチーム医療を展開し、地域に根差した第一線の病院として多種多様な疾患に対応すると共に、大学病院として最新のリハビリテーション医療を提供しています。

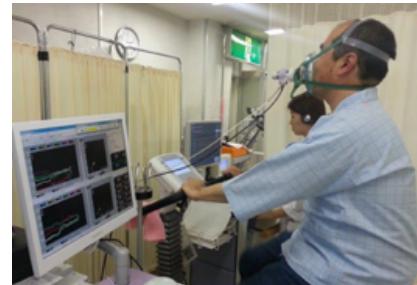


リハビリ科年間新患数 2812名
(2014年度実績)

研修の特徴

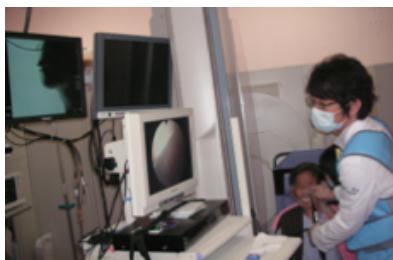
①急性期リハビリテーション

高度急性期医療におけるリハビリテーションを積極的に展開し、入院患者の37%にリハビリテーションを提供しています。療法士が豊富に揃い、多岐に渡る領域の疾患・障害（脳血管障害、神経変性疾患、摂食嚥下障害、小児疾患など）に対するチーム医療を経験します。



②心臓リハビリテーション

心不全や急性心筋梗塞後では早期（中央値3日）からリハビリテーションを開始しています。急性期からリスク管理を行い、パスに沿ってチーム医療で心臓リハビリテーションをすすめます。必要に応じて、心肺運動負荷試験（CPX）で評価します。



③摂食嚥下リハビリテーション

多岐に渡る疾患の摂食嚥下障害の評価・治療・リハビリテーションを行っています。年間136例の嚥下内視鏡検査、149件嚥下造影検査を行っています（2014年度）。必要に応じて、嚥下マノメトリー検査、嚥下筋電図検査も行います。



④電気生理学的診断・評価

末梢神経障害、神経筋疾患の診断・評価として、電気生理学的診断（神経伝導検査、針筋電図検査）を行っています。

⑤痙縮治療

痙性片麻痺、痙性対麻痺など筋緊張が亢進している患者に対して、A型ボツリヌス毒素（ボトックス）治療や神経ブロックを行っています。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土
AM	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来	一般外来
PM	一般外来	嚥下内視鏡検査	筋電図検査	嚥下内視鏡検査	筋電図検査	
		嚥下造影検査	痙縮治療	嚥下造影検査	痙縮治療	
				嚥下 カンファレンス	合同 カンファレンス	

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I) 運動器リハビリテーション料 (I) 呼吸器リハビリテーション料 (I) 心大血管疾患リハビリテーション料 (I) がん患者リハビリテーション料			
リハビリ医（指導医）数： リハビリテーション科病床数（回復期）：	2 (1) 名 0 (0) 床	専攻医数： 担当コンサルト新患数： 担当外来数：	1名 20例/週 5例/週
入院患者コンサルト数： 外来数：	40例/週 40例/日	専門外来 痙攣治療 摂食嚥下障害	1例/週 1例/週
専門外来	2例/週 2例/週	専門外来 痙攣治療 摂食嚥下障害	1例/週 1例/週
スタッフ数	18名 11名 4名		
理学療法士 作業療法士 言語聴覚士			
診療領域		診療領域	
(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など (2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 (3) 骨関節疾患・骨折 (4) 小児疾患 (5) 神経筋疾患 (6) 切断 (7) 内部障害 (8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	328例 10例 1400例 280例 530例 5例 670例 990例	(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など (2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷 (3) 骨関節疾患・骨折 (4) 小児疾患 (5) 神経筋疾患 (6) 切断 (7) 内部障害 (8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	100例 10例 50例 5例 10例 2例 100例 30例
検査		検査	
電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価 心肺運動負荷試験	26例 104例 125例 153例 2例 40例	電気生理学的診断 言語機能の評価 認知症・高次脳機能の評価 摂食・嚥下の評価 排尿の評価 心肺運動負荷試験	20例 20例 20例 100例 0例 1例
理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 ブロック療法	1870例 1096例 346例 1例 15例 0例 253例 47例	理学療法 作業療法 言語聴覚療法 義肢 装具・杖・車椅子など 訓練・福祉機器 摂食嚥下訓練 ブロック療法	300例 200例 100例 1例 10例 30例 100例 15例

藤田医科大学 七栗記念病院

〒514-1295 三重県津市大鳥町424-1

代表電話：059-252-1555

指導責任者：園田 茂



病院ホームページ

<http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL4/>

施設概要

藤田医科大学七栗記念病院（旧七栗サントリウム）は、1987年三重県津市に開院された藤田医科大学の第3教育病院です。2000年より回復期リハビリ病棟が設置され、訓練室一体型病棟において、全国に先駆けて週7日間の集中リハビリ(FIT program)を実践してきました。回復期リハビリ病棟の他、一般病棟、療養病棟、緩和ケア病棟を有し、さらにデイケアセンターも併設されております。ロボットを含む最先端のリハビリ機器が装備されています。最近1年あたりの疾患別患者数は681名で、脳出血30%、脳梗塞40%、くも膜下出血5%、外傷性脳損傷5%、骨関節疾患8%、脊椎・脊髄疾患6%、廃用症候群5%、その他1%です。

医師は18名で、リハビリ科の他、内科、外科、歯科があり、緩和医療や認知症診療などを軸とするスペシャリティの高い専門医研修体制を整えています。日本医療機能評価機構認定病院であり、常に「品質」の観点から業務改善に取り組んでいます。回復期リハビリ病棟を150床持ち、急性期病院と密接な連携をとりながら、地域へと継続的につなげていきます。リハビリ科医師は10名おり、他科医師、療法士、看護師、MSW等と密に連携してチーム医療を展開しています。

研修の特徴

①リハビリテーションの基本的な流れがわかる

リハビリ専門病院として高い専門性を有し、基本領域とサブスペシャリティの幅広い診療科における専門医研修体制を構築しています。年間700件の新規リハビリ科の入院患者があり、加えて関連診療各科にリハビリテーションを提供しています。急性期病院との連携を図り、回復期退院後の外来・訪問リハまで、対応するリハビリを経験することができます。また、地域連携包括支援中核センターを有し、地域に根差した医療のネットワークを持っています。

②地域におけるリハビリテーションのリーダーとなる

当地域では高齢者が多く、リハビリへのニーズが多大にあります。その知識・技術はすべての医療・介護・福祉スタッフに必須のものです。専攻医はリハ教育（初期研修医に対する地域医療研修、研修医・介護職向け講義等）や療法士の学会発表指導を指導医とともに経験します。また、医療介護の地域連携会を企画し、地域医療におけるリハビリをリードする行動を身につけます。

③数多くの指導医が常にバックアップ

指導医1名と専攻医1~2名の少人数体制です。症例を通して指導医が日々、マンツーマンで指導します。3ヶ月毎にフィードバック面談を行い、目標設定しながら研修を進めます。大学の教育病院として国際的発信に力を入れ、国際交流も盛んで講演会論の機会も多数設けています。



【週間スケジュール】

時間	内容	月	火	水	木	金	土
8:30-9:00	朝病棟カンファレンス	●	●	●	●	●	
8:00-9:30	症例カンファレンス					●	
9:30-10:30	新患回診						●
9:00-12:00	病棟業務	●	●	●	●	●	
9:30-15:00	病棟回診		●				
10:00-13:00	新患業務						
13:00-17:00	病棟業務	●	●	●	●	●	
13:30-15:30	嚥下造影検査	●		●			
13:30-15:30	嚥下内視鏡検査				●		
15:30-17:00	嚥下カンファレンス	●		●			
14:00-15:00	病棟カンファレンス		●				
14:00-17:00	装具診・プレースクリニック	●		●			
14:00-17:00	筋電図・ウロダイナミック検査				●		

病棟の患者を把握し、コメディカルとの情報共有を図ります

主治医として患者を診断加療し、リハビリテーションを行います

嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査を多数例経験します

装具診を通じて、装具の処方や適合判定などを学びます

神経筋疾患や神経因性膀胱などの診断技術を身につけます

リハビリ科施設概要と診療実績		専攻医の研修内容と経験予定症例数（半年）	
施設基準			
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)			
運動器リハビリテーション料 (I)			
がん患者リハビリテーション料			
附属・関連施設			
通所リハビリテーション			
居宅介護支援事業所			
リハビリ医（指導医）数：	10 (4) 名	専攻医数：	6名
病床数（回復期）：	218 (150) 床		
入院患者コンサルト数：	15例/週	担当コンサルト新患数：	5例/週
外来数：	5例/日	担当外来数：	5例/週
特殊外来		特殊外来	
痙攣治療	1例/週	痙攣治療	1例/週
訪問リハ	7例/日	訪問リハ	1例/週
摂食嚥下障害	2例/週	摂食嚥下障害	2例/週
スタッフ数			
理学療法士	34名		
作業療法士	28名		
言語聴覚士	14名		
診療領域		診療領域	
(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など	605例	(1) 脳血管障害・外傷性脳損傷など	40例
(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	51例	(2) 脊椎脊髄疾患・脊髄損傷	40例
(3) 骨関節疾患・骨折	93例	(3) 骨関節疾患・骨折	35例
(4) 小児疾患	0例	(4) 小児疾患	0例
(5) 神経筋疾患	10例	(5) 神経筋疾患	1例
(6) 切断	0例	(6) 切断	0例
(7) 内部障害	0例	(7) 内部障害	0例
(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	43例	(8) その他（廃用症候群、がん、疼痛性疾患など）	2例
検査		検査	
電気生理学的診断	4例	電気生理学的診断	4例
言語機能の評価	400例	言語機能の評価	40例
認知症・高次脳機能の評価	600例	認知症・高次脳機能の評価	60例
摂食・嚥下の評価	432例	摂食・嚥下の評価	43例
排尿の評価	37例	排尿の評価	4例
理学療法	712例	理学療法	40例
作業療法	668例	作業療法	40例
言語聴覚療法	463例	言語聴覚療法	25例
義肢	1例	義肢	0例
装具・杖・車椅子など	173例	装具・杖・車椅子など	10例
訓練・福祉機器	100例	訓練・福祉機器	5例
摂食嚥下訓練	59例	摂食嚥下訓練	4例
ブロック療法	60例	ブロック療法	3例